

校内研究計画

甲州市立玉宮小学校

1. 学校課題

本校の子どもたちは明るく素直で、個性を發揮しながら元気に学校生活を送っている。本年度は6名の新入児童を迎え、低学年が児童数の半数以上を占める学年構成である。各学年児童は10人に満たず、3年生がいないこともあって全校児童23名と大変小規模になってしまった。しかし児童会を中心とする様々な活動を通して、学年の枠をこえての交流が多く、上級生が下級生の面倒をよく見ている。休み時間や放課後にも学年入り交じって、元気に遊ぶ姿が見られる。

しかし現代社会が抱える諸課題は子どもたちの生活に影響を与えており、遊びや家庭生活の変化から子どもの学びを支える直接体験が不足しがちになっており、様々な取り組みが必要とされている。

- (1) 児童数が減少している。上級生や同級生が少なくなってきたり、地域の人々とのふれあいの機会も減少してきていることから、**社会性や人間関係をつくっていく力を**育てていく必要がある。
- (2) 学習においては、課題に真面目に取り組むので基礎的・基本的事項は理解できている。さらにそれらを応用したり、**発展したりして考える力を**伸ばしていきたい。
- (3) 課題意識を持って自らの力で考え、判断し、解決していこうとする**問題解決力**や、進んで自分の言葉で表現しようとする**主体的な態度**が十分であるとはいえない。昨年度までの研究や、家庭学習の取り組みにより、自分で考えたことを発表しようとしたり、自分で課題をもって家庭学習に取り組んだりしようとする意欲には高まりが見られる。
- (4) 少人数で学ぶため、クラス内の位置は固定されてしまいがちである。多様な意見を出し合ったり、友達同士が関わり合って学んだりすることで**コミュニケーション能力**を高め、**よりよい集団作り**を目指したい。
- (5) 多様な個性とのふれあいによる種々の能力への**あこがれや高め合いが希薄**である。地域の教育力を有効に活用し、多様な個性、人・物・自然とのふれあいを通して子どもたちの感性を深め、広げていきたい。

2. 研究主題

「確かな学力」を育てる学習活動の工夫

— 少人数学級に応じた算数科の授業づくり —

3. 主題設定の理由

学校課題で述べたように、本校児童は少人数で学ぶため指導が行き渡りやすい反面、多様な意見を出し合い、友達同士の関わり合いによって学ぶなど、学び合うことが弱い傾向にある。そこで、学習場面に思考したり表現したりする場面をいかに仕組み、考えをどのようにして引き出していくか、そのためにはどのような学習形態がよいのか等、「授業が命」という視点に立って見直していくことが必要になる。

算数的な思考力・表現力を育成するためには、少人数学級においても授業形態や授業過程に学び合い・伝え合いを取り入れ、個と集団の相互作用を取り入れる事が有効である。工夫した算数的活動を取り入れた授業を積極的に行い、「自分の考えを持ち、工夫して表現できる児童」、「友達と学び合い高め合う事ができる児童」を育成した

い。

4. 研究の具体的内容与方法

○授業づくり

(1) 児童の実態の把握

○NRTや学力診断テストの結果、「Q-U」などを活用して各学年の児童の実態把握をし、学級集団づくり、学習指導、研究に生かすために課題や手だてについて検討する。

(2) 理論研究

○全体研究で、研究の基本方針の検討決定を行う。

○講師を招いての理論研究を行う。

(3) 研究授業

○授業研究・・・各自実践事例を積み重ね授業作りの工夫をし、その中で一人一実践を基本とし授業を通して実践的に学び合う。

研究授業を行ない、授業案の検討・思考の見取・評価について共に学び合い、指導法を研究する。

○学習基盤づくり

(4) 学習規律・習慣の確立

○「Q-U」の結果については、全校を一集団ととらえ、学校づくりに生かす。

○「玉宮小学習の約束」や「表現力アップ」など、学習基盤の検討・取組を行う。

○家庭学習について全校で方向を確認し、取組を進めていく。

○朝学習の時間の有効な活用について研究する。

年間校内研修計画

			研究主任	田邊 珠紀	
月	日	曜日	内 容	担当	TC要請
4	8	水	今年度研究の方向性の確認	田邊	
	22	水	学校課題・研究主題・主題設定の理由検討 今年度研究の方向性の決定・予定の確認 継続的な取り組み・つけたい力について	田邊	
5	13	水	K13法について	千頭和	○
	27	水	「Q-U」の結果をもとに取組について検討 学習会 「甲州市ティーチャーズノートの活用」 「学び合う」学習活動について久保田指導主事	田邊	
6	10	水	「Q-U」の結果をもとに取組について検討 学習規律・家庭学習の取り組みについて	千頭和 田邊	
7	1	水	授業実践① (学力把握調査等の結果を受けて)	担当学年 各学年	
	15	水			
8	17	金	教育課程環流報告 NRT・知能検査・「Q-U」の結果を生かし、 各学年の計画・取組	各担当 各学年	
9	2	水	実践に向けて 授業実践②・授業案検討	各学年 担当学年 授業者	
	9	水			
10	7	水	授業実践③・授業案検討	担当学年 授業者	○
	14	水	授業実践④ 研究授業 授業実践⑤	担当学年 授業者	
	21	水		担当学年 授業者	
	28	水		担当学年	
11	18	水	「Q-U・II」の結果をふまえて取組の検討	千頭和	
12	9	水	授業実践⑥	担当学年	
1	27	水	実態調査結果考察・各学年の課題の見直し 研究集録について	各学年	
2	17	水	研究の成果と課題 研究のまとめ ～ 研究集録用原稿作成	田邊 各担当	
	24	水			
3	2	水	研究集録作成作業	全職員	